



営農NEWS



半促成ピーマン栽培でのアザミウマ類、アブラムシ類、うどんこ病の発生増加に注意しましょう

県病害虫防除所の「病害虫発生予報5月号」によりますと、4月末現在、半促成ピーマン栽培におけるアザミウマ類の発生は平年より多く、アブラムシ類も平年並～やや多い発生とのことです。また、うどんこ病も平年に比べてやや多い発生で、今後ともこれらの発生状況のまま推移すると予想されています。

なお、アザミウマ類については5月9日付で「病害虫速報No.2」を発表し、「圃場をよく観察し、アザミウマ類が多発生している場合は、速やかに薬剤防除を実施してください」と呼びかけています。

これらの病害虫は、多発生しますと防除がなかなか困難になりますので、少発生のうちに防除を徹底して下さい。

1 アザミウマ類、アブラムシ類

【防除のポイント】

- 1) 施設内に青色粘着トラップを100枚以上/10a設置すると、アザミウマ類の密度低減に有効とされています。
- 2) アザミウマ類などは、薬液が到達しにくい花や蕾、新芽等の中に生息していることが多いため、整枝剪定の後など薬液が生息場所にかかりやすくなったときに、株全体へ丁寧に散布しましょう。
なお、アザミウマの種類により効果のある薬剤が異なる場合がありますので、被害の特徴等から出来るだけ種類を明らかにし、薬剤を選択してください。
- 3) 天敵昆虫を導入している圃場では、天敵への影響をメーカーや関係機関から必ず指導を受けてください。
- 4) 防除効果を確認しながら、抵抗性害虫の発達を抑えるために、系統の異なる薬剤でローテーション散布しましょう。
- 5) ハウス内外の雑草（アザミウマやアブラムシ類の飛来源、ウイルスの保毒源）を常に除去しておきましょう。

表1 ピーマンのアザミウマ類に適用のある主な防除薬剤（平成26年5月13日現在）

薬剤名	系統名	希釈倍率	使用時期/使用回数	登録の対象害虫名
プレオフロアブル	—	1,000倍	収穫前日まで/2回以内	ミナミキイロアザミウマ
カスケード乳剤	I GR	4,000倍	収穫前日まで/3回以内	ミナミキイロアザミウマ
コテツフロアブル	—	2,000倍	収穫前日まで/2回以内	ミナミキイロアザミウマ、ミカンキイロアザミウマ
ベストガード水溶剤	ネオニ	1,000~2,000倍	収穫前日まで/3回以内	ミナミキイロアザミウマ

表2 ピーマンのアブラムシ類に適用のある主な防除薬剤（平成26年5月13日現在）

薬剤名	系統名	希釈倍率	使用時期/使用回数
コルト顆粒水和剤	—	4,000倍	収穫前日まで/2回以内
チェス顆粒水和剤	—	5,000倍	収穫前日まで/3回以内
モスピラン顆粒水溶剤	ネオニ	4,000倍	収穫前日まで/2回以内

2 うどんこ病

【防除のポイント】

- 1) 施設内の通風、採光を良好にするため適正な整枝剪定を行い、換気を適切に行って適度な温湿度の圃場環境を保つように努めましょう。なお、日照不足が続く場合は、予防散布を行いましょ。
- 2) 発病葉や被害落葉は伝染源になりますので、できるだけ丁寧に圃場外に持ち出し、適切に処分しましょう。
- 3) 防除効果を確認しながら、耐性菌の発達を抑えるために、系統の異なる薬剤でローテーション散布しましょう。

表3 ピーマンうどんこ病に適用のある主な防除薬剤（平成26年5月13日現在）

薬剤名	系統名	希釈倍率	使用時期 / 使用回数
パンチョTF顆粒水和剤	E B I + 酸アミド	2,000倍	収穫前日まで/2回以内
ラリー水和剤	E B I	4,000~6,000倍	収穫前日まで/4回以内
ダコニール1000	有機塩素	1,000倍	収穫前日まで/3回以内
アフエットフロアブル	アニライド	2,000~4,000倍	収穫前日まで/3回以内

※ 表3の他に、硫黄粒剤のくん煙処理があります。この場合には専用の電機加熱式くん煙器を利用してください。

農薬を使用する際は、ラベルに記載の登録内容、使用法、注意事項などを確認し、飛散に注意して使用して下さい。



生産資材部 営農企画課

電話：029-291-1012 FAX：029-291-1040